

 神石高原町

第50号

平成29年4月15日

みんなの 町議会

将来の夢に向かって!!

■注目事業ピックアップ.....	4
■予算をチェック.....	6
■町政のここを聞く.....	12
■ありやあどうなったん.....	22

3月定例会

3月定例会は3月6日から3月22日まで開かれました。町長の施政方針の表明があり、提出された平成29年度当初予算など、108議案を慎重審議し、いずれも原案の通り可決しました。

一般質問では10人の議員が、町政の課題などについてたどしました。

施政方針

前牧野町政の基本的な考え方を踏襲し、健全財政の維持を基本に、稼ぐ行政への転換を図る。「挑戦のまち神石高原町人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる取り組みと融合を図りながら、各種事業の確実な実行に向けスピード感をもって取り組む。

入江町長 8つの挑戦

1 超高付加価値農業の実現

- ・プレミアムブランドの構築
- ・産直市場の見直し

2 チャレンジファンドの創設

- ・地域資源を活用した新規起業等育成支援

3 協働のまちづくりの推進

- ・協働支援センター本格稼働

4 世界を相手にできる人財づくり

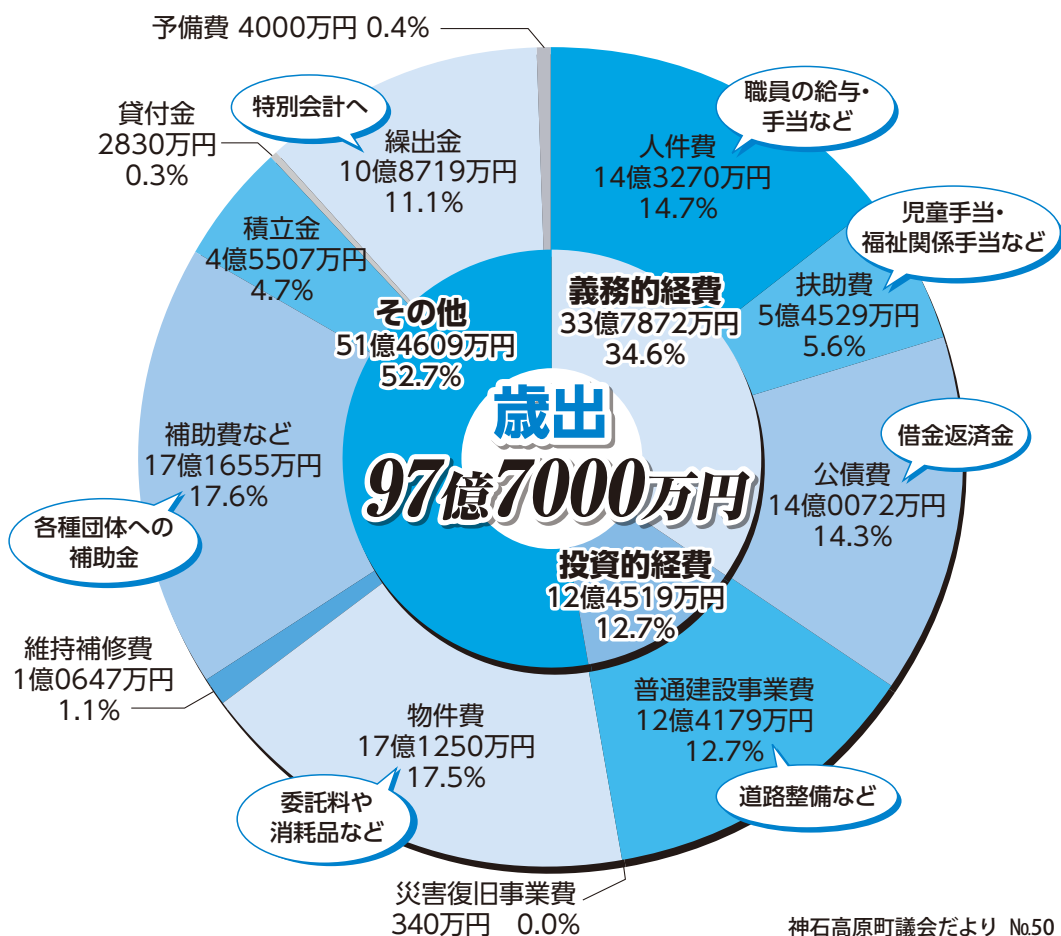
- ・中高生海外研修の充実
- ・3歳児から中学生まで一貫した英語教育の推進
- ・ビジネスコンテスト・ふるさと回帰塾開設

5 町民が尊敬しあえる環境づくり

- ・達人ネットワークの構築
- ・第5期障害者計画の策定

6 定住促進の強化

- ・第2定住団地の検討
- ・遊休財産の活用



平成29年度 予算 一般会計

97億7000万円

昨年比 2億円増

スタート!

誰もが

神石高原

平成29年度 予算会計別総括表

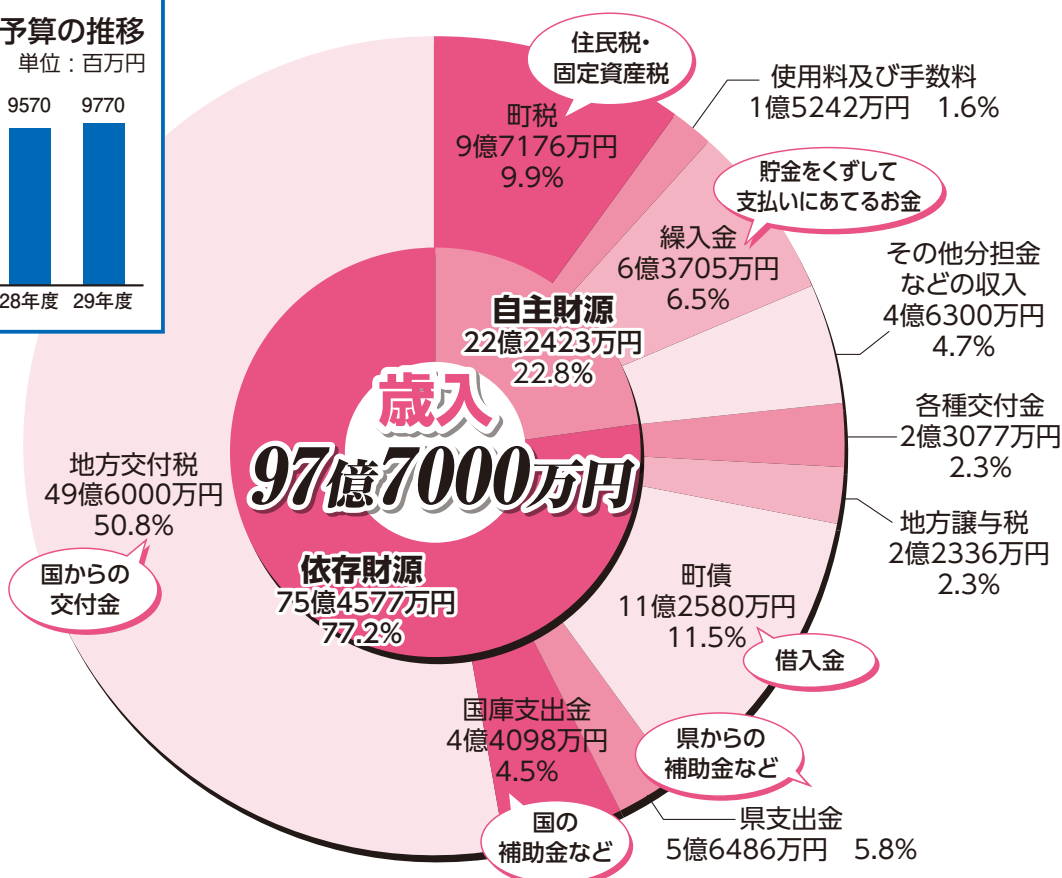
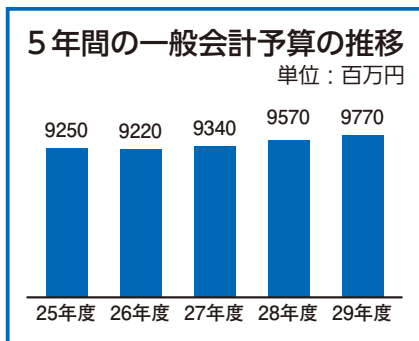
単位：万円

会計名	H29年度	H28年度	比較 増減率	
	当初予算額	当初予算額		
一般会計	97億7000	95億7000	2.1	
特別会計	国民健康保険	12億5380	12億7380	▲1.6
	後期高齢者医療	3億7480	3億8350	▲2.3
	介護保険	18億5510	19億1550	▲3.2
	簡易水道事業	4億8870	3億8720	26.2
	飲料水供給施設事業	3620	3520	2.8
	農業集落排水事業	2億4080	2億4670	▲2.4
	分収育林事業	10	10	0.0
	総合開発事業	0	590	▲100.0
	特別会計計	42億4950	42億4790	0.0
病院事業会計	4億0351	3億3197	21.6	
合計	144億2301	141億4987	1.9	

- 7 医療・福祉サービスの充実
 - ・ 町立病院建設事業
 - ・ 保険医療体制整備
 - ・ 子育て支援の充実
- 8 行財政改革の推進
 - ・ 定員適正化計画に基づく職員採用
 - ・ 積極的な財産活用

7 医療・福祉サービスの充実

8 行財政改革の推進



★自主財源：町へ皆さんが納めるお金
★依存財源：国や県からもらえるお金

ピックアップ!

町内の産品・観光資源
などに高い評価を
目指す

JIN(神)プレミアム事業

ふれあいタクシーの運賃助成など

3970
万円



トータルブランドの 構築

1100
万円



チャレンジファンド創設

302
万円



世界を相手にできる人財づくり (英語教育の推進)

1339
万円



達人ネットワーク の構築

55
万円



平成29年度

注目事業

新規



有害鳥獣被害防止のため
里守り犬を育成

426
万円



継続・拡充

トマト栽培研修等施設の
基盤整備

3445
万円



神石高原町議会予算特別委員会 委員長報告(抜粋)

横尾正文 委員長



平成29年度神石高原町一般会計予算、ほか7特別会計予算及び平成29年度神石高原町病院事業会計予算の9案件について、全議案とも、原案どおり承認すべきものと決定した。

「8つの挑戦」に関する事業は、積極的な取り組みとして評価するが、関係機関等との調整を図り、体制づくりに取り組まれない。

より安定的な財政基盤の確立に引き続き努力されたい。

特に、次にあげる項目について予算執行をするよう意見した。

1. J-N(神)プレミアム事業は体制づくりを慎重に取り組むこと。
2. 新たな生活交通事業は利用者に支障がないよう柔軟な対応を図る。
3. 町立病院の建設と運営は適正な規模と人的資源の確保を要望する。
4. 協働支援センターの本格稼働には、町の積極的支援で公民館活動の充実を図ること。
5. 産直市場の検討は、各店舗の特性を生かし、関係者の意見を充分に聞き、運営方針を考えること。
6. 基金の取り崩しについては、慎重に取り扱うこと。

予算をチェック

総務課

地方公会計制度

木野山委員 470万円
の事業費に交付税措置は。全額業務委託だが、職員での対応はできないのか。

総務課長 台帳記帳業務、書類作成業務に特別交付税措置がある。職員も連携して作業にあたっている。

消防団経費

赤木委員 災害時職員人件費は計上されているが、主となって動く消防団は経費が計上されていない。条例も含め検討すべきでは。
総務課長 県内でも災害時の費用弁償を行っている団体もあり、町としても今後検討していきたい。

備蓄物資

横山委員 災害時の備蓄物資はどのようなものをするのか。

総務課長 バランス栄養食600食と水500mlを720本。

本庁舎

橋本委員 庁舎検討委員会の目的は何か。
入江町長 本庁舎南棟は耐震補強できないことを踏まえ、検討委員会では広く町民の声を聞きたい。

生活交通

藤田委員 生活交通確保事業の見直しにおいて、町営バス豊松町立病院線を残す必要があるのか。
総務課長 豊松地区は無医地区であるため存

続する。

ふれあいタクシー

橋本委員 新年度から始まるふれあいタクシーの利用について、資格のない人の同乗は可能か。
総務課長 有資格者が最初に乗車していれば、途中からの同乗も可能だ。また町外の人も同乗しても良い。

横山委員 タクシー事業は夜間の運行はできないか。
総務課長 採算は合わないが、今後緊急時のために、業者にも努力をして頂き、町としても要請をしていく。

予算特別委員会

まちづくり推進課

ビジネスコンテスト

横山委員 ビジネスコンテスト事業の報奨金100万円は高すぎないか。

まちづくり推進課長 報奨金は他市町の例を参考にした。

久保田委員

チャレンジ ジ事業で町外の応募者が町内で起業した場合、補助制度は活用できるか。

まちづくり推進課長 活用できる。

起業ならなんでも良い。

入学祝い金

横山委員 入学祝い金をもう少し早い時期に支給できないか。

まちづくり推進課長 4月1日現在で

入学見込みでの補助金なので、前もって支給する事

産業課

有害鳥獣対策

はできない。

木野山委員 報奨制度の拡充とジビエ料理提供制度の確立で捕獲者の意欲を高めたらどうか。また追い払いにドローンの活用は。

産業課長 成果の糧となるテコ入れは検討したい。頭数制限が目的



広島県アンテナショップ TAU (タウ)

でバランスも考慮し検討する。
ドローンの活用は猟友会と一緒に検討していく。

久保田委員

ハウスを覆う、猿除け防止柵と金網補助金の個人への適用は。

産業課長 ハウスを覆う金網と防止柵をわけて申請すれば2分の1の補助がある。

アンテナショップ

久保田委員 東京のアンテナショップの活用は。県のアンテナショップ活用は。

産業課長 府中市から、新規アンテナショップへの出荷要件がある。

県のアンテナショップPTAU(タウ)への出品数は限られている。

なまづ養殖

久保田委員 なまづ養殖での加工販売の取り

組みは。
産業課長 草木自治振興会へ、法人化について要請している。

有機の里構想

久保田委員 有機の里構想の補助金1000万円の根拠は。

産業課長 細かく計算した金額ではないが、精査をして4回に分けて支払う。

橋本議員

有機の里構想の内容は。

産業課長 初年度は3人程度の研修生を予定し、2年間の研修後、定住を義務付ける。

次年度からは、随時10人程度募集する。最終目的は定住だ。

進学補助

赤木委員 油木高校から県立農業技術大学へ進学した場合、授業料相当を補助する制度がある。他大学に進学した場合の補助があっ

中山間事業

赤木委員 中山間等直接支払い事業の今後の展望は。

てもいいのでは。

産業課長 青年就農給付金の認定を受けた教育機関が増えれば、対象を広げていきたい。

また県外であってもそういった教育機関で町内に就農の方向が出れば拡充は考えていきたい。

間伐材の補助金

産業課長 集落の統合により、事務の集約を図り、協定面積が今後伸びることを期待している。

小川清治委員 新規事業間伐材の補助金は、誰に支払われるのか。

産業課長 山林所有者に支払う。



どうなる なまづの加工販売

コーディネーター

小川清治委員 182ス

テーションにコーディネーターを設置するが、内定者は。産業課長 公募する。

環境衛生課

里守り犬

寄定委員 保護した犬は里守り犬として活用できるか。



犬の適性を見極め、里守り犬に訓練

環境衛生課長 ピースワンコ・ジャパンで保護している犬の中には猟犬の血統の犬もいるので、適性を見ながら訓練をする。飼い犬も適性を見極めて訓練をしていく。

里守り犬の取り組みは、犬の活用による有害鳥獣対策と保護犬の譲渡率向上という2つの目的を持っている。

保健課

奨学金の貸付

横山委員 医療従事者奨学金貸付事業での成果は現れているのか。

保健課長 昨年一人退職されたが、今年2人が就職の予定だ。成果は、もう少し長い目で見守りたい。

信頼される病院

木野山委員 病院の赤字原因は人口減少・高齢化だけでなく信頼される病院かどうかだ。対策は。

保健課長 良質で安全な切れ目のない医療の提供を行い、町民の期待に応えられるように日々努める。

地域包括ケアシステム

寄定委員 地域包括ケアシステム構築のため、社会福祉協議会へ委託するが、取り組み

内容は。

保健課長 生活支援体制整備の取り組みとして生活支援コーディネーターを設置し、地区社協などで取り組む。

認知症

橋本議員 認知症地域支援推進員の職務と、現在の配置数は。今後の常勤配置の予定は。

保健課長 現在1人を専任で配置している。認知症に関わる窓口業務や認知症初期集中支援チームの活動などにも参加している。看護師や保健師などの専門員で募集をしているが応募がないのが現状だ。

学校教育課

学校教材

木野山委員 新規に各学校へ配布する英語教材の活用方法は。



油木小学校授業風景

学校教育課長 各学校長に任せて取り組む。教育長 小5・6年生は外国語活動で、1〜4年生はALTによる活用を行う。中学校では英語の教科内で活用する。

生涯学習課

公民館事業

寄定委員 公民館事

業の協働支援センター移行と図書館の指定管理運営の今後のあり方は。生涯学習課長 公民館事業としての社会教育や生涯学習は、家庭・社会・地域で取り組んでいきたい。図書館事業は、生涯学習事業のなかで取り組んでいきたい。

補正予算

3月補正

一般会計では、2億729万円が追加補正され、総額121億9116万円となった。
 一般会計補正予算財源の主なものは、町債9960万円、地方消費税交付金2552万円などを減額し、寄付金1億5078万円、繰入金4514万円などを増額した。
 特別会計を含む、全会計の総額は167億5911万円となった。

平成28年度3月一般会計補正予算

単位：万円(四捨五入)

費目	補正予算	補正後予算	主な内容
議会費	0	8555	
総務費	8062	20億6058	源流の里維持再生▲1385、ふるさと納税追加交付1億3965
民生費	▲3298	18億7016	国保会計繰出1399、後期高齢者会計繰出▲2488
衛生費	▲711	12億3552	病院政策医療交付7000、病院事業会計補助▲1876、簡易水道会計繰出▲3253
農林水産費	▲3952	13億1479	有害鳥獣奨励金367、トマト選果場整備▲1970
商工費	▲2075	1億4737	豊松仁吾川ビレッジ改修工事▲1281
土木費	▲3412	6億6359	国県道整備▲100、単独町道整備▲1010
消防費	▲1550	4億7015	常備消防▲1253、非常備消防▲150
教育費	▲343	7億8096	中学校寄宿舎居住経費▲100、町立体育館改修▲145
災害復旧費	▲1124	4021	
公債費	▲2260	15億7517	長期債元金償還▲1175、長期債利子償還▲718
諸支出金	3億1392	19億0711	財政調整基金積立3億569、減債基金積立186
予備費	0	4000	
合計	2億0729	121億9116	

平成28年度 特別会計・病院事業会計補正予算

単位：万円(四捨五入)

会計名	H28年度		
	29.3月補正	29.3月補正後予算	
特別会計	国民健康保険	▲3092	12億6474
	後期高齢者医療	▲2487	3億6365
	介護保険	▲7862	18億7011
	簡易水道事業	▲8243	3億1811
	飲料水供設事業	27	3969
	農業集落排水事業	0	2億5515
	分収育林事業	0	10
	総合開発事業	0	714
	特別会計計	▲2億1657	41億1869
病院事業会計	5424	4億4926	
合計	▲1億6233	45億6795	



三和公民館まつり

補正予算質疑

総務課

応援交付金の積立ては

橋本議員 広島県からの未来の地域づくり応援交付金の積立ては、来年度以降も継続するのか。

総務課長 平成28年度限りだ。油木高校支援や定住対策などに充当したが、1000万円を積立て次年度の財源とする。
平成29年度の必要な事業に充てる予定だ。

まちづくり推進課

団地販売の会計処理は

橋本議員 総合開発事業特別会計は廃止だが、残地の19区画について今後の処理は。

まちづくり推進課長

一般会計のなかで、土地販売収入として処理する。

地域おこし協力隊は

横尾議員 平成29年度の地域おこし協力隊の応募状況は。

まちづくり推進課長 4人の方から応募がきている。面接を行い5月か6月には採用予定だ。

雇用促進奨励金は

横尾議員 雇用促進奨励助成金の実績見込みの半分ぐらいであるが、理由は。

まちづくり推進課長 雇用の好転により募集しても応募が少ないようである。平成29年

建設課

町道油木豊松線は

横山議員 町道油木

豊松線の改良がなかなか進まない理由は。建設課長 地すべり区域や保安林区域である事が課題で、進んでいないが、平成29年度は測量を進めていきたい。

保健課

政策医療交付金は

木野山議員 政策医療交付金は確定した段階で精算のために追加補正を組むものだ。

この度は見積金額で追加補正している。なぜ今回の3月なのか。また平成27年度から総額で2億円を超えて

いる。なぜか。

保健課長 追加補正額7千万円について指定管理者から12月の実績見込みで3月までで7028万5千円と聞いている。9月補正で精算する。

急激に増えた原因は入院患者の減による収入減が要因と思う。

橋本議員 町立病院事業会計の、政策医療交付金7000万円の経費の内訳は。

副町長 事務レベルでの調整や、事業本部長や院長、またトップ同士などあらゆる会議を持ちながら、内容の精査を行っている。



油木高校体育祭

条例制定・改正 こんなことが決まったよ

全会致
人事

・人権擁護委員
赤木千恵子さん（再任）

全会致
計画の策定

・神石高原町第2次長期総合計画
今後のまちづくりの方向性や方策を
町民と行政が共有し、取り組むため

全会致
条例制定

・野菜栽培研修施設設置及び管理条例
野菜栽培研修施設新設のため

全会致
条例廃止

・総合開発事業運営基金条例の廃止
事業の終了に伴うもの

賛成多数
条例の一部改正

・行政組織条例の一部改正
庁舎・病院の建設を確実に推進する
ため、新規に「政策企画課」を設置

・町営バス条例の一部の改正
ふれあい号の廃止と、タクシー運賃
補助制度などの導入のため
(他17件)

全会致
新規
指定管理者の指定

・油木コミュニティセンター
油木協働支援センター

・総合交流センターじんせきの里
神石協働支援センター

・豊松基幹集落センター
豊松協働支援センター

・三和老人福祉センター

・三和協働支援センター
(他5施設)

継続

・神石高原町スコラ運動公園多目的広場
等施設
株式会社帝釈峡スコラ
(他53施設)

全会致
名称の変更

・字の地域及び名称の変更について
安田地区の一部、上豊松地区の一部
の地籍調査終了のため

全会致
町道路線の変更

・町道広瀬吉永線
車両通行困難箇所を道路延長からの
ぞいたため
(他2路線)

全会致
町道路線の廃止

・八石ダム線・大向線
車両通行困難箇所を照査したため



3月定例会での執行者側

質疑の一部を要約してお伝えします

質問時間は、答弁を合わせて一人一時間以内で一問一答方式



林 憲志 議員

問 放置竹林の対策は

答 ひろしまの森づくり県民税を活用

Q 町内に放置された竹林が散見される。大雪の際には道路などにも倒れ、生活の妨げになる。

里の美しい景観を害し、農作物に被害を及ぼす野生動物のネグラーにもなっている。放置竹林対策は。

A 町長 放置竹林の解消を図るため、平成19年度から「ひろしまの森づくり県民税」を財源とした補助

制度の活用で取り組んでいる。根気強く対処することで防げると信じている。

Q 町が竹チップを貸し出し出来ないか。

A 町長 現段階では考えていない。しかし、竹堆肥はビタミンが向上し農作物が甘くなるなど、増収効果が期待される。竹の堆肥化と一体的に検討する。

Q 帝釈峡振興をいかに考えているか。

A 町長 最近では庄原市と連携し、交流体験型観光を推進している。また、外部のアイデアを活用した「国定公園帝釈峡PRプロジェクト」を観光協会などで進めていけたらと思う。重要な観光地である事から、JIN(神)プ

帝釈峡振興を



散見される放置竹林

レミアムブランドの枠に入ると考えている。

Q 帝釈川沿いの遊歩道の再開は。

A 町長 通行止め区間の遊歩道は、落石だけでなく、伯岩橋に亀裂があり、県においても多額の改修費もかかることから再開のめどは無い状況だ。

県・庄原市・神石高原町の対策協議会で検討されている。

Q 神龍湖のアオコ対策は。

A 町長 (株)中国電力を事務局として「帝釈川貯水池水質改善対策検討会」が開かれている。町はオプザーバーとして参加している。貯水池内の水質状況調査やアオコの流出防止フェンスの設置などにより検証が行われている。



伯岩橋の通行止め表示



赤木 俊二 議員

問 町民の合意を どう得るか

答 施策を着実に実施する

Q 誰もが挑戦できるまち神石高原町の基本理念を、町民のすべてが受け入れているわけではない。挑戦に疲れた人や、ゆっくり生きたい人もいるという事実を認識し、これに対してフォローする必要があるのでは。
また大きなプロジェクトも多く全体的に手が回っていない感覚を受けるが、町長の見解は。

A 町長 誰もが挑戦できるということでは誰でもチャレンジできる環境を作るという思いだ。一歩前に踏み出したいか、こんなことをやりたいという方の支援をしていきたい。

Q プロジェクトの内容を知らない町民の方は、懐疑心や距離感をもっているが町長は町民の合意を得て、ともに町を創っていくリーダーである。合意を得るためにはどう対応するか。

A 町長 行政懇談会や、新たに作る政策企画課で対応し施策を着実に実施していきたい。

子育て支援の充実を

Q 町では子育て支援の充実のため保育所や幼稚園、託児所への預け入れに係る費用

を助成している。子どもの預け入れに助成があるのであれば、在宅での保育に給付金などの助成はしないのか。

A 町長 保育所は、家庭における保育が困難な場合に、保育の必要性を認定し利用することができる。利用者負担として保育料を徴収している。

町は子育て世帯の負担軽減を図っているが、在宅での保育への給付金は考えていない。

Q 子どもを自宅育てる、子どもを預ける。一方は補助が十分出ている、片方は補助もない。不公平感があるのでは。

A 町長 考え方については理解したが、現段階では補助は考えていない。そういう方が増えてくれば考える必要がある。



いずみ保育所退所式

問 認知症高齢者見守りは

答 地域での見守りを強化



横山 素子 議員

Q 超高齢化社会を迎え、今後増えていく認知症高齢者の徘徊の見守りをさらに強化していく必要があるのでは。

A 町長 行方不明者の対応として、新年度中に事前登録制によるネットワーク化を考えている。備後圏域連絡協議会でも、高齢者徘徊SOSネットワークを広域的な連携ができるよう協議中だ。地域で見守りや声かけをしていただける認知症サポーターを増や

Q 認知症初期集中支援チームを設置して包括的な支援を行っているが、現状と課題は。

A 町長 平成28年4月に設置をし、8人の専門職を配置して活動している。ご家族や地域から相談があった方へ訪問し、もの忘れ外来や、各種予防教室を紹介して介護サービスへつないでいる。課題はまだこの活動が広く知られていない事で、パンフレットを作成し、多くの方に知って頂き、専門職によるサポートをしていきたい。

Q 認知症高齢者の交通事故防止対策は。

A 町長 平成29年3月12日から改正道路交通法が施行され、

Q 民生委員欠員の対応は

A 核家族化や高齢化などにより、民生委員の役割は大きくなっている。昨年の改選で未だ決まっていない地域があるが、この対応はどうするのか。

A 町長 民生委員児童委員協議会で欠員地域の取り組み体制を協議され、支部ごとに対応されている。

75歳以上の方は、運転免許証更新の際、認知症機能検査を受けなければならなくなっている。地域包括支援センターでは、免許証返納にかかる様々な相談を受けている。

Q 除雪対策は

高齢化や人口減少に伴い、今後除雪

対応も困難になるので。ペレーター不足も認識している。

A 町長 業務委託したり、住民の皆さんにもご協力いただきたい。建設業者の考え。将来的には、町外業者への支援要請も視野に入れる必要があると考える。



多職種で地域包括ケアシステムを検討する地域ケア会議



横尾 正文 議員

機構改革によって どう変わるのか

答 まちづくり推進課で支援

Q 機構改革によって協働支援センターへの取り組みがどう変わるのか。

A 町長 4月より地区公民館を各地区の協働支援センターへ移行させ、生涯学習活動を地域活動の一環として行う体制を構築し、まちづくり推進課で支援する。

Q 協働支援センターは、各地区にとって近い将来大きな役割を担うと思うが、職員の処遇はどうするの

か。また、社会福祉協議会やシルバー人材センターなどの連携強化が必要では。

A 町長 業務量や責任の度合いを考慮し、協議しながら処遇については検討する。社会福祉協議会などとの連携については今後協議していく。

Q 事務局長の給与が下がったと聞くが、理解は得られているのか。

A 町長 協働支援センターでの雇用という形態にした。昨年から協議で理解をいただいているので、今年度はこの形で行く。

チャレンジファンドは

Q チャレンジファンドの取り組みを具体的に示してほしい。

A 町長 各地の地域創造基金などを参考にし、町から拠出す

る企業誘致のための基金2億円と、町民・民間企業・NPOなどからの出資や寄附を1億円。

また、ふるさと納税制度の活用も検討し、町内での起業や活動を支援する。

Q 今は、後継者難や成長鈍化に悩む地方の中小企業が見出している。町は人材や情報を集め、町内の素晴らしい資源を持つている企業を支援すべき

では。

A 町長 その目的に沿って進めていく。

告知放送は

Q 告知放送の規定は。また、地域の医療・福祉に携わるボランティア活動をされている方の告知放送の利用は可能か。

A 町長 規定上、放送できないものは、宗教や政治に関するもの。また営利を目的とするものである。

A まちづくり推進課長 医療・福祉に関わるボランティア活動については文字放送や

ページング放送での放送は差し支えない。

その他の質問

・庁舎建て替え



神石協働支援センターの職員

問 当初予算への思い入れは

答 挑戦できる人材を育成する



橋本 輝久 議員

Q 当初予算では、見直しや継続、新たな事業の取り組みを計上してある。特に「挑戦」という観点を予算にどう反映されているのか。

A 町長 J-IN(神)プレミアム事業として計上している。所信表明で述べた8つの挑戦全ては新規の取り組みではない。協働のまちづくり、行政改革など継続する事業もある。挑戦できる人材を育成する予算だ。

J-IN(神)プレミアムとは

Q J-IN(神)プレミアムとは、町で生産された製品のワンランク上を目指すものなのか。

A 町長 産品だけではなく、自然の環境など水・空気また観光資源などあらゆるものが高く評価されることを目指すものだ。

神石牛の販路拡大は

Q 都市部へのネットワーク化を図ることとは重要だが、畜産農家の生産体制への対応は。

A 町長 東京での販売は最初から大量とは考えていない。新たに肥育経営する若者もいると聞いている。

産直市場見直しは

Q コーディネーターを配置する目的は。

A 町長 幅広いネットワークをもった人材を配置し、産直市場の3施設の運営などの見直しを検討する。

チャレンジファンドは

Q チャレンジファンドを運営するのはどのような組織なのか。

A 町長 財団法人、投資組合、第3セクターなど何が望ましいか検討中だ。これを担う人材も町内から採用したい。専門的なアドバイザーも必要だ。

機構改革は

Q 縦割り行政から脱皮し、横の連携をとり、各種施策に取り組むべきでは。

A 町長 新たに参事を配置し、各種課題の解決と政策調整を図る体制を構築した。庁舎や病院の建設など、緊急的な課題の解決に向け、新たに政策

企画課を設置し、より専門的かつ機動的に業務を推進する体制を構築する。

支所体制は

Q 協働支援センターは行政との連携が必要だが支所体制は。

A 町長 新年度8人体制から1人減の予定だ。各地区協働支援センターに係る職員は1人体制を維持する。

本庁舎は

Q 本庁舎施設の南棟は耐震改修が不可能である。建て替えかれないのでは。

A 町長 病院用地が庁舎についても検討委員会を立ち上げ検討する。

その他の質問

・総合戦略について
・教育行政について



改修が検討される、さんわ182ステーション



久保田 龍泉 議員

問 町立病院存続に向けて

答 医師の確保に努める

Q 町立病院存続に向けて関係当局へ医師確保の要請は。また、要望書は出したのか。

A 町長 昨年12月22日に、広島県はじめ関係機関に医師派遣などの要請を行った。今後は要望書をもつてお願いに行く。

Q 整形外科診察は、月2回では少ない。府中市市民病院の整形外科は2人の医師で診察し、本町内からの患者も多く、町立病

院の患者数減少の原因になっているのでは。

A 保健課長 患者数は1日当たり20人程度でレセプトデータ※から整形外科受診の需要は大きいと考える。医師の確保に努めていく。

Q 小児科医療体制はできるのか。

A 町長 町立病院の診療科目に小児科を加えることは考えていないが、平成29年度に子育て世代包括支援センター設置準備の中で、小児科医と協議していく。

Q 待合室で議会中継を見ることができないか。

A 町長 新年度設置に向け町立病院と協議している。

※レセプトデータとは
…医療報酬明細書

本庁舎移転は

Q 合併協定書は存在するか。

A 町長 協定書はある。庁舎新築の場合182号線沿いの中心付近とするとされている。基本的に尊重するが状況が変わっており現状が優先すると考える。

Q 庁舎検討委員会の内容は。

A 町長 建て替えや移転の必要性を検討する。移転の場合、議会での3分の2の議決が必要だ。

公共交通機関の見直しは

Q ふれあい号、福祉タクシーは負担増になるが、利用者への説明は。

A 町長 利用回数や目的に制限はなく、同一料金で利用で



議場で提案する三和中学校の生徒

三和中学生議会

Q き、平準化が図れる。折衷案として500円運賃の導入は。

A 総務課長 初乗り料金程度の負担とした。試行期間であり状況を見て制度の改善をする。

Q 三和中学校生徒が、町の活性化について素晴らしい提言をしてくれた。実現可能なものもあったがどう取り組むのか。

A 町長 実現可能性の高いものもあり、費用対効果を見ながら各課で検討する。

問 土砂災害地域指定への 対応は

答 住民周知に努める



小川 清治 議員

Q 県の基礎調査の実施により、来見地区では、今回土石流警戒区域22箇所（内、特別警戒区域17箇所）急傾斜地警戒区域97箇所（内、特別警戒区域94箇所）が今回指定される。

指定後、土砂災害警戒区域では、警戒避難体制の整備を図ること。土砂災害特別警戒区域では、建築物の構造規制、特定の開発行為に対する許可制、建築物の移転の勧告が行

A 町長 ①広島県報による公示を平成29年3月30日に行う予定。

われ、土砂法指定後の土地売買等の適正化が義務化される。

① 指定期日はいつか。

② 土砂災害警戒地域に立地する居宅は何件、居住人数は。土砂災害特別警戒区域に立地する居宅は何件、居住人数は。

③ 土砂災害特別警戒区域に立地する居宅は何件、居住人数は。

④ 土砂災害防止法の規定による町の警戒避難体制の整備はどうされるのか。

⑤ 町全体の指定終了予定は。

A 町長 ①広島県報による公示を平成29年3月30日に行う予定。

Q 危険箇所周知のため各戸へのハザードマップは、大きく一目でわかりやすいものを配布されたい。

A 町長 わかりやすいマップを配布する。

Q 平成25年11月に町災害時要援護者避難支援台帳に記入し、町に提出したが未だに配布されておらず、自主防災訓練などの活用が出来ない。いつ配布されるのか。

A 福祉課長 調査途中、法改正で災害時避難行動要支援者と

ない。

④ 避難情報の伝達が確実に行われる為の対策、ハザードマップの作成配布による住民周知を行う。避難対策等は、避難場所や避難経路を自主防災組織と相談する。

⑤ 町全体の指定完了は平成31年度中。

名称が変わったため時間を要した。平成28年6月に整理が済んだので早い時期に配布したい。



下豊松振興会 防災訓練の様子



木野山 孝志 議員

問 JIN (神) プレミアム 事業は

答 総合的に判断し外注

Q JIN(神)プレミアム事業は、外部依存事業が多い。その理由と今後の見通しは。

A 町長 さんわ18 2ステーション店舗リニューアル、まるごと市場のあり方、第3セクターの統合事務といった3つの構想を外部委託する。コーディネーターについては、幅広い知識を持つ人材をさんわ182ステーションに配置する。

チャレンジプランド、超高付加価値農業など、様々な事業の専門性や事務量、費用対効果、事業期間など総合的に判断し、好ましいものは、外注する方向で検討中だ。

Q 第3セクターの廃止や統合の件は、もう少し具体性がないと町民は理解しない。

A 町長 あくまで方向性を示したものでメリットやリスクをコーディネーターに分析させ検討する。

協働支援センターの支援は

Q 各地区協働支援センターの策定した計画に対する支援は。

A 町長 各地区支援センターと協議し進める。協働支援センターでの雇用には財政支援を検討するが、今以上の職員の対応は考えていない。

い。

Q 協働支援センターでの一括交付金の基金造成は全て目的基金とされている。町の財政調整積立基金のように何割かを柔軟性を持たせ自由に使用させては。

A 町長 中身を見て検討したい。

A まちづくり推進課長 何割を自由裁量とするか、交付金なので議会説明も可能な形にしたい。協働支援センターと協議し進める。

Q 協働支援センターでの先駆的な取組みに対する補助金交付は補正予算対応とするのか。

A まちづくり推進課長 協議の中で必要であれば補正対応したい。

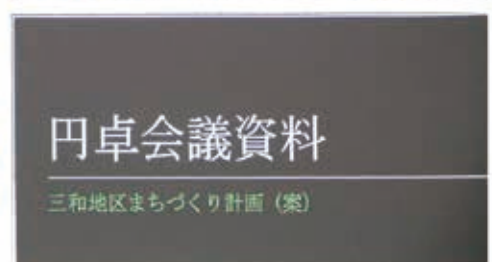
公民館事業の移行は

Q 公民館事業は、地域の伝統文化事業の要である。教育委員会部局で実施されるからこそ文化の香りがする。

地区公民館事業の協働支援センターへの移

行により何を指すか。

A 生涯学習課長 地域の伝統文化の行事を、社会教育の枠を越えて生涯学習事業の中の取組みとしてやっていく事が、本当に地域に根差した文化活動だと考えている。



まちの将来について考える、三和協働支援センター円卓会議

問 胃ガンの「リスク検診」導入を

答 検討していきたい



寄定 秀幸 議員

Q 胃がんのリスク検査（ABC検査）を総合健診に導入すべきでは。

A 町長 ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）の抗体検査は、健診対象者の絞り込みにおいては有用な方法と考える。

総合健診のバリウム検査や胃内視鏡検査はがんを直接見つける検査であり、市町村のがん検診は、死亡率減少を目的としている。今のところ総合健診への導入は考えていない。

Q 胃がんの原因は、98%がピロリ菌の感染によることが明らかとなっている。胃がんリスク検査において陽性であれば、除菌することで胃疾患を抑制し、胃がんを防ぐことができる。

また、若いうちから予防すれば、胃がんリスクが大きく軽減されるとして、中高生を対象にリスク検査を始めた県や市町村が増えている。

A 町長 子育て支援にもつながるので検討していきたい。

Q 「私に何ができませんか」と逆に伺うプッシュ式行政への取り組みは。

プッシュ式行政は

健康をプレゼントする未来への投資として、「胃がんリスク検査」の実施を再度検討すべきだ。

A 町長 マイナナンバーの活用が進む段階で具体的な取り組みを考えているが、当面、窓口や職場で「ほかに何かできることはありませんか」と声を掛けることから始める。各種団体へも特化した情報を積極的に提供する。

町版「ネウボラ」は

Q 包括的子育て支援・神石高原町版

「ネウボラ」の具体的な取組は。

A 町長 新年度から保健課に「子育て支援係」を新設し、平成30年度「子育て世代包括支援センター」設置の準備を始める。新たに保育士1人を配置し保健師と共に、小児科医や関係機関の協力を得ながら、体制づくりに取り組む。子育て期から学童期、就労まで支援できるネットワークづくりに取り組む。

その他の質問

・防災・減災対策、災害時の避難所運営について

※ネウボラとは：フィラメントで「アドバンスの場」を意味する子育て支援設備



神石小学校 卒業生



小川 善久 議員

問 小島バイパスの開通は

答 用地取得が未完了

Q 小島バイパスはなぜ、全線開通をしないのか、進捗状況を説明せよ。

A 町長 交渉の長期化にともない、過去に「事業認定の手続きを進める」と発言したことなどで、地権者が行政への不信感を持ち、今日まで同意が得られていない。引き続き県と連携を図り誠意をもって交渉を行う。

病院建設事業は

Q 町立病院は耐震補強や旧病棟のみの建て替えは考えられないか。

A 保健課長 耐震補強を行うことは出来るが、診察室・リハビリテーション室として機能しなくなる。工事中は患者が耐えられない騒音・振動ではない。補強後、長期間使用することは想定しづらいため新築を検討している。

Q 東館病棟は十分に使用できるのでは。

A 町長 建築後26年を経過（耐用年数は39年）老朽化は耐震性とは違い避けられない。残りの耐用年数との費用対効果の問題があり、十数年で建て替え問題が発生するなどにより断念した。

Q 病床数、総面積、総金額と完成予定はいつ頃か。

A 町長 移転後の病床数は、地域医療構想や人口減少を勘案し、60床以下と考えている。

面積は、規模・機能により算定することとなる。現病院本館延床面積6,066㎡より縮小したものになる。経費については、規模・機能の内容や用地取得・造成工事は建設場所などにより左右される。

概算額は、4月中旬に決定する必要がある。予算は、測量費・造設計費、基本設計費、用地取得経費などを、新年度4月末頃に補正予算をお願いしたいと考えている。平成31年度に完成予定だ。



老朽化の進む町立病院東館

追跡

ありやあどうなったん？



(完成予想図)

概要

延床面積：約 670 m²
 構造規模：木造平屋建て
 総工費：3億4千万円（管理・撤去費他含）
 定員：45人

いずみ保育所 新築移転

いずみ保育所は、老朽化などで地元から建て替える要望が出ていたが、平成29年度、旧神石中学校跡地へ新築移転が決定した。0歳児保育が可能で、広い園庭で子ども達がのびのびと遊べる設計となっている。屋根の形は「やまなみ」を表現したものだ。

活動報告

産業建設常任委員会

養鶏場跡地の埋め立ては、井原市村入水道組合からの嘆願書

(委員長 久保田龍泉)

調査場所

神石高原町近田字宇手迫

調査日

平成29年2月15日(水)

調査内容

平成28年12月26日、畑地を造成する名目で、家畜の糞尿、木材チップを含んだ汚泥を埋めている様子を見聞した下流域水道組合が、水源があるため、事業停止を業者に依頼する旨の嘆願書が提出された。

環境衛生課長と現地へ出向き村入水道組合員5人と現地で作業中の業者から説明を受けた。

搬入汚泥の重金属は国の環境基準以下であり、水源に影響が出ない

いようにするということであったが、業者に水源の定期的な検査を要請した。これに対し、会社で検討するとの回答。

まとめ

業者は国の規制基準に基づいて事業を行っており、事業の停止要請は困難である。

神石高原町は早急に業者へ対し、地元や水道組合への理解が得られる説明をするように委員会として要請した。



養鶏場跡地

活動報告

総務文教常任委員会

福祉を中心とした
まちづくり

(委員長 横尾 正文)

調査場所

岡山県新見市哲西町
哲西診療所ほか

調査日

平成29年1月25日(水)

調査内容

福祉を中心とした取り組みとして、新見市役所哲西支所庁舎に診療所や図書館・認定こども園など施設を1カ所に集約し、ATMによる金融サービスなどの機能をワンストップサービスとして提供している。

まとめ

病院の建て替えに関し、庁舎と病院を同じ施設の中にするのが望ましい。

地域公共交通事業

調査場所

岡山県久米郡美咲町

調査日

平成29年1月26日(木)

調査内容

生活交通機関確保として、タクシー運賃助成を実施。



美咲町幸福タクシー

- ・支払方法は1万円までは町内は最大1千円
- ・タクシー事業は国・県の補助金がない。
- ・高齢者の免許証の返納がしやすくなった。
- ・この制度でタクシー業者の収入が増え、従業員に対しても収入増につながった。

まとめ

- ・路線バスの減便の周知と新制度の周知をしっかりと行うこと。
- ・低床で乗りやすく狭い場所にも入りやすい車の導入を希望する。

こばたけ保育所現地調査
保護者会による老朽化に伴う新築についての要望書

調査場所

神石高原町小畠
こばたけ保育所

調査日

平成29年3月10日(金)

調査内容

建物の老朽化が著しく、建物寿命の低下傾向が顕著である。児童の安心安全を確保するため保育環境の改善が望まれる。

まとめ

長期的な財政運用の観点から判断すると、新築することが望ましい。今後の保育所のあり方についての協議検討が必要である。必要な改修を早急に実施するよう要望する。



改修が望まれるこばたけ保育所

まちの声

○毎月ネットでアップされるのを楽しみにしています。

(横浜市 60代 男性)

○遠方よりありがとうございます。励みになります。

○より住みやすい地域になる

書面で議会を見れるのは良いですね。

(50代 女性)

○わかりやすい広報誌を目指します。

○聞く耳を開いて身体に気を付けて活躍してください。

(80代 男性)

○皆様のご意見をしっかりと聞いて町政に反映させていきます。

○町立病院の移転について、不安な方が多い。患者さんの声を聴いてほしい。

(女性)

○議員も患者さんの声をしっかり聞かなければならないと考えています。

○とっても読みやすい。誌面で町のことがよくわかります。

○高齡者にとって住みよい町になるような何か良い手だてはないものか日々考えさせられます。

(40代 女性)

○ありがとうございます。やはり町に住む一人一人がどうにかしたいという思いが必要です。

○町長さんが変わられていろいろと期待しています。町長

さん議員さんのその日の活動や考えなど、ブログで町内外へ発信すればよいのでは。

(30代 女性)

貴重な御意見をありがとうございます。前向きに取り組みたいです。

議会クイズにたくさんのご応募ありがとうございました。

クイズの答え

- ① 新体制
- ② 挑戦
- ③ J・I・N

第31回議会クイズ当選者

豊松地区

川上 裕さん

おめでとうございます。

○お体ご自愛ください。これからも充実した広報誌づくりを努めていきます。

○いろいろ知らせていただきうれしく思います。これからも体に気を付けて元気に頑張りたいです。

(80代 女性)

○新議員さんの就任期間が短いにも関わらず、よく勉強されていると思います。これからも頑張っていたきたいと思えます。

(女性)

○全議員初心を忘れず、一丸となって町の発展のために頑張ります。

お知らせ

第5回議会報告会「どうなる病院と庁舎!!」

日時と場所

5月23日(火) 陽光の里文化ホール

5月24日(水) 総合交流センター

じんせきの里

5月25日(木) 油木コミュニティセンター

5月26日(金) 三和協働支援センター
(旧三和公民館)

時間

19時～21時

テーマ

- J-IN(神)プレミアム事業
8つの挑戦
- 町立病院の建て替え
- 庁舎建設について



報告の後、皆様との意見交換の場を持つ予定にしています。皆様の声をお聞かせ下さい。多数のご参加をお待ちしています。

表彰

松本彰夫議長が町議会議員として全国町村議会議長会から在職27年、久保田龍泉議員が広島県町村議会議長会から在職25年以上の功績を称えられ、表彰されました。



松本彰夫議長

久保田龍泉議員

「みんなの町議会46号」が第37回議会広報コンクールと第34回議会広報写真コンクールにおいて、ともに広島県で最優秀賞を受賞しました。この受賞を励みに、さらに住民の皆様に関心される広報誌を目指して頑張ります。

受賞誌



議会広報常任委員会

元気なグループ紹介だよ



ロックダンスグループ
イースタン
ロッカーズ

イースタンロッカーズは、現在、小学生8人・中学生2人・高校生1人の合計11人で毎週火曜（大人）・木曜日（キッズ）に、油木コミュニティセンター2階ホールで19時～21時の2時間500円でダンスレッスンをしています。去年は、ティアガテルの野外イベント、油木ふるさと祭り、油木ブロック総合文化祭と、神石高原町総合文化祭に出演させて頂きました。これからも、今まで以上に練習を重ね、多くの人に披露出来ればと思いますので、応援宜しくお願いします。

生徒募集しています。ダンスしてみたい方は、見学だけでも大丈夫です。これからも、イースタンロッカーズを宜しくお願いします。

代表 小田 匡彦

発行責任者 議長 松本彰夫

住所／広島県神石郡神石高原町小島二〇二五

第32回 議会クイズ

《クイズ》空欄に適切な言葉をいれてください。

1. P5 里守り●を育成
2. P20 町版「●●●●」は
3. P4 ふれあい●●●●

《ヒント》議会広報をよく読んでね。

《応募方法》

ハガキに「答え・住所・氏名（ふりがな）・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。

正解者多数の場合は厳正な抽選により、1人の方に5000円分のこうげん通貨券をお送りいたします。

応募は、1人・1通に限らせていただきます。

《あて先》

〒720-1522
神石高原町小島二〇二五番地
神石高原町議会事務局
「第32回議会クイズ係宛」

《締め切り》

5月10日（水）消印有効

《個人情報取り扱いについて》

ご記入いただきました個人情報報は、賞品発送および『まちの声』などの目的以外には利用いたしません。

議会を傍聴してみませんか 次回の定例会は6月です

表紙の紹介



油木高校 入学式の1年生



町内各学校で入学式が行われ、新学期がスタートしています。

季節は冬から春へと移り変わり、一年で最も気持ちのいい季節になりました。

議会広報常任委員会では、昨年の広報誌が広島県で、2年連続最優秀賞を受賞した事により、これを励みにこれからも皆様に読んで頂ける広報誌づくりに励んでいきます。

たくさんの方の議会クイズへのご応募をお待ちしています。
(素子)

議会広報常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 赤木 俊二 |
| 副委員長 | 横山 素子 |
| 委員 | 木野山孝志 |
| 委員 | 林 憲志 |
| 委員 | 小川 善久 |

発行 / 神石高原町議会 編集 / 議会広報常任委員会